

2009年度を終えて

理事長 小畑 宏 介

はじめに、我々青年会議所が目指す「明るい豊かな社会」。それは笑顔が溢れ、誰もが幸せに暮らす社会を思い描くのではないのでしょうか。これは、私の所信の冒頭であります。JC運動がより良い未来へのイメージから始まったように、私もあきたの未来を思い描く事から、社団法人秋田青年会議所の2009年度をはじめの所となりました。そして、笑顔が溢れる理想の社会に近づきたいという一心で、一年間過ごしてまいりました。

一年を終えようとしている今、メンバーの皆様から素晴らしい機会を与えていただいたことへの感謝の気持ちしかございません。

「おもいやり」の心の伝播

お互いが優しい繋がりで支え合う地域を目指し、利他の精神に基づく「おもいやり」の心を伝播する事業を行ってまいりました。『親子おもいやりスクール』では、家族が助け合いながら目的を達成していく様々なプログラムを体験していただき、身近な人を想う「おもいやり」の心で溢れる1日となりました。まちを構成する様々な人との関わり、相手の立場に立って考える大切さを感じ取っていただけたと思います。また、相手を感じ、その“つながり”に気付くからこそ生まれる「ありがとう」という気持ちを詰めた『ら・ブック&ノート』を発刊し、「おもいやり」の心を連鎖的に広げていくことを形として表現することができました。

私たちの実践した「おもいやり」の心が広がり、どこかでたくさんの笑顔を生み出していると確信しております。

誇りあるまちへ

市民や行政、企業、他の団体の方々との更なる「協働」。今後のまちづくりのテーマとなる地域の独自性の高い「魅力」。その2つの「地域の力」を最大限に活かして、秋田を「誇り溢れるまち」にかたちづくっていく事業を行ってまいりました。「協働」においては、3回目となる世代間協働事業『2009あきたふれ愛フェスタ～ミルヴェェさ行くべ～』を行い、これまでの継続事業は勿論のこと、循環アグリ体験を新たに加え、それぞれのプログラムを市民の皆様と、これまで以上の参画意識のもと共に作り上げることができました。また、『今こそ前へ！地域・企業・行政で奏でる地域防災ハーモニー』事業を通し、地域防災という切り口で企業の社会貢献への意識付け、及び秋田JCのスケールメリットにおける可能性を示すことができました。そして「魅力」においては、「雄物川の隠れた魅力体験ツアー」にて、あきたのまちづくりのテーマとして、雄物川の素晴らしさを示すことができました。そして人間力開発プログラム「学の夏休み」を継続して展開し、魅力ある人間力溢れるあきたへの一助としました。

2つの「地域の力」をもって、人と人、地域と人を結び、まちに貢献する喜びや身近な地域社会へ

の参画意識、そして、地域への誇りを醸成することができたと思います。

子供たちの「道しるべ」

価値判断基準を見失いがちな現代の子供たちに、守るべき道徳的価値観をしっかりと伝えていく事業を行って参りました。青少年育成事業『みんなあつまれ！見て！遊んで！育むどうとくしん』では、紙芝居、キーホルダーづくりというプログラムを通し、伝える手法を踏まえつつ、8つの道徳心を秋田J.Cの示す「道しるべ」として提示することができました。また、地球環境を未来より借り受けているという視点に立ちつつ実施した事業『あきたecoスタイル2009』では、「オラバック」という名称で、エコバックを広め、地球環境に配慮する行動を提示できました。

私たちが愛するあきたの未来を託す子供たちのために、また、郷土を引き継いでいく責任世代としてJ.Cの考える方向性を示すことができたと思います。

公益社団法人を視野に

変革の能動者として積極果敢に事業を行い地域に働きかけ、私たちの存在意義を高めていくことを目指した1年でありました。数々の対外事業を通し、可能性を導き、愛するまちや人から共感を得られたのではと感じております。

「つながり」の象徴

世の中は、誰しもが不況という言い訳をし、「自分さえよければよい」という利己主義に偏り、人々の心にひどく冷たい「無関心」という魔物を宿らせてしまっているように思います。そして、地域と人、人と人との関係の希薄化に拍車をかけ、地域やそこに暮らす人々が、本来もつ活気や元気を失わせているように思うのです。私たちが「無関心」という魔物と対峙する為に必要なことは、目に見えない「つながり」ではないでしょうか。それは「おもしろい」という心の「つながり」であり、誇り・愛着心という地域との「つながり」であり、子供たちへ託す強い想いという未来への「つながり」であると思うのです。私はこの1年、メンバーのみなさまから、「つながり」を表す「利他の精神」、信頼、絆、誇り、郷土愛、協働といった、かけがえのない贈り物をいただきました。それらの「つながり」をもった存在、まさしく、私たち青年会議所こそが、その「つながり」の象徴であると私は感じております。そして、思い描く、笑顔が溢れる社会に変えられる存在も、輝く未来に向け今日の犠牲を厭わない私たちなのではないでしょうか。

結びに

新年例会があり、メンバーに多くの気づきをもたらした例会がありました。また、秋田J.C出向者の活躍を誇りに感じる各種大会があり、みなさまのホスピタリティーを示したサッカー全国大会がありました。そして、みなさまの英知と勇気と情熱の結晶である2009年度を彩った事業がありました。これまで「地域愛と利他の精神がおりなすおもしろい心をもって笑顔が溢れる心豊かなまちあきた」の創造という基本理念に基づいた1年間の皆様が行った全ての活動、そして、一人ひとりに心から感謝を申し上げます。

本年度、メンバーの皆様の起こした行動が、どんなに小さなものであったとしても、受け取った

人々の心に想いを宿らせることができたなら、それは、消えることなく、やがて螺旋状に広がっていく。終りがあっても、どこかではじまりがあります。そして、どこかで誰かの笑顔をつくっている、私は、そう信じています。2009年度の秋田JCを彩った全てに感謝致します。1年間本当にありがとうございました。

2009年を終えて

直前理事長 長谷川 尚 造

理事会においては発言の回数がめっきり減らされ、議決権も剥奪。理事長の良きアドバイザーでなければならぬし、決して前面に出るはならないのが直前理事長。しかし、理事会において時に長い直前挨拶をしてしまい、翌月の議事録を見て自己嫌悪に陥ること多々……。理事会構成メンバー、とりわけ総務委員会の皆さまには心からお詫びしつつ、皆さまの反面教師として頂きたい。

前文からお詫びとなってしまうましたが、JCに入会以来、明確なミッションがない立場で1年を過ごすことは初めてであり、LOMや地域にどれだけ貢献できたのかを振り返るにつけ、自省の念に駆られてしまいます。そのような年に、ブロック協議会に出向をさせて頂いたおかげで、JC運動を例年同様にできたことを心から幸せに感じておりますし、ご協力頂いたLOMの全ての皆さまに感謝しております。2003年以来、本会に連続して役員を輩出し、更にはその役員や組織を支えてきたメンバーを多数輩出しているながらも、JC活動・運動をきちんと展開しているLOMは全国にそうはありません。

2009年度も小畑理事長をはじめとする秋田JCのメンバーが、きちんとLOMを守ってくれているからこそ、我々は安心して出向先の職務に専念できていたのだと改めて痛感します。

理事長時代「誇り溢れるまちあきたの創造」を目指し、市民やメンバーにもっと秋田や自分自身に誇りをもってもらいたいと訴えてきましたが、「1年間おまえのプライドを俺に預けろ、俺がおまえのプライドになる」と言い切れる人間（安里会頭）に出会い、己の器の小ささを思い知ることで私を成長させてくれた、そんな1年を与えてくれた秋田JCに心から感謝申し上げます。

小畑理事長の支えにはなれなかった1年だったかも知れませんが、県内外の本当に多くの人々との出会いから学んだことを、現役で活動できる人間の一人としてメンバーの皆さまにお伝えし、そして共に邁進することをお誓い申し上げ、直前理事長としての報告に代えさせていただきます。

LOMを支えてくれた全てのメンバーに心から感謝申し上げます。

1年間本当にありがとうございました。

2009年度を終えて

副理事長 松 本 繁

はじめに、今年度は副理事長という大役を仰せつかりましたが、小畑理事長をはじめ三役・常任、そして会員皆様のお力添えにより何とか2009年度を終えることができたことに心から感謝申し上げます。また、自身にとってはJ C最終年度でもあり、これまで一緒に活動してきたメンバーや各場面でお世話になった諸先輩の皆様にもこの場を借りて感謝申し上げます。

さて、今年度私が担当させていただいたのは小野常任率いる未来創造室の環境行動推進委員会と青少年育成委員会でした。環境行動推進委員会の鈴木亮委員長におかれましては、事業の立案にやや苦勞しましたが、事業に対する想いは終始変わらず信念の強さと持ち前の行動力で事業成功へとつなげていただきました。一方、青少年育成委員会の鈴木憲委員長におかれましては、ほぼ事業計画通りに一年間委員会活動をされたのでおそらく本人も満足されたと思いますが、調査・研究を怠ることなく懸命な努力をした結果の表れであると思います。また、両委員会が良い形でゴールを迎えることができたのは、経験を活かした的確な指導とサポートをしていただきました小野常任のおかげであると思っております。さらに未来創造室の皆様におかれましては、今年度はJ Cサッカー全国大会における懇親会部会もご担当していただきました。大懇親会の設営・運営や二次会案内のためのナイトマップ作製など本当にご苦勞をお掛けしました。委員会メンバーも含むこの未来創造室の皆様と一年間活動を共にできたことにあらためて感謝申し上げます。

ところで、2009年度は2008年後半からのリーマンショックによる百年に一度と言われる世界的大不況を引きずった中でスタートを切りました。景気の良い時代も悪い時代もその時代背景が引き起こす現代社会の問題が潰えることはなく、いつの時代も我々J Cは先輩達から引き継いできた精神を行動に起こし「明るい豊かな社会」の創造を目指して活動をしてきました。「こんな時代だからこそJ Cを頑張るのだ」という先輩から聞いたことのあるこのフレーズを、ここ数年は何度となく意識しました。活動を通じてたくさんの人と出会い友情を育み、時には苦しい思いをし、仕事や家庭では経験することのできない感動を目の当たりにすることもありました。確かに金と時間は使いましたがそれ以上に得たものは大きく「もしJ Cに入っていなかったら・・・」と考えるだけでもゾッとします。そして、卒業を控えた今、先輩の言い伝えを守りJ Cを頑張ってきて本当に良かったなと思いますしそのことを誇りに思います。卒業後はJ Cで経験したことを活かし地域社会発展のために寄与したいと思います。後輩の皆様もこんな時代だからこそJ Cを頑張っていたいただきたいと思います。(「頑張る」の基準は自己判断です)

最後になりますが、入会以来お世話になりました全ての方々に御礼と感謝を申し上げ報告とさせていただきます。本当にありがとうございました。

2009年度をおえて

副理事長 萩原 慎太郎

本年、小畑理事長より副理事長を仰せつかり、進藤常任理事担当の地域「協働」室、世代間協働推進委員会並びに企業貢献力向上委員会を担当させていただきました。秋田J Cの55周年記念事業としてスタートした世代間協働推進事業は、いよいよ今年で3年目を迎えました。年々その事業展開の難しさが増す中、新任理事でもある能登谷委員長にはその手腕をいかんなく発揮していただきました。新しいことへの挑戦、継続事業の難しさを委員会一丸となり見事に乗り切り、一年を通し素晴らしい形にさせていただきました。また、同じく新任理事である伊藤委員長は持ち前のバイタリティーと発想力をもって、地域企業に訴えかける発展的な事業である「ハーモニーⅠ、Ⅱ、Ⅲ」を行っていただきました。

当初からの事業計画で掲げていた通り、両委員会とも「情熱・熱意」が感じられる素晴らしい事業でした。またその両委員長を一年間通し指導してきた進藤常任理事の力量には、本当に頭が下がる思いです。本来であれば伝える立場でありながら、改めて沢山の事を学ばさせていただいた様な気がします。ラストイヤーを迎えるにあたり、この両委員長、常任理事と共に歩んできた一年間は、自分にとって非常に有意義なものであり、本当に感謝・感謝の連続でありました。

11年前のJ C入会時を振り返ると、理事・常任等の立場は予想だにしない所にあり、遠くから見ていた副理事長はとても厄介なものにみえ、今の自分は想像もつきませんでした。しかしながら、専務理事を経て副理事長を2回務め上げ、本年小畑理事長の意にそえた役割が出来たかどうかは分かりませんが、後悔しない一年にしようと努力はしてきたつもりです。

単年度という制度は、良くも悪くもJ Cを特徴づけるもので、「一年があっという間に・・・」と感じる事はJ Cならではの事だと思います。その中には沢山の出会いがあり、体験があり、学びがある、それがJ Cの醍醐味です。単に好き勝手をしただけかもしれませんが、卒業というステージが存在したからこそ、今年は新鮮で感慨深いものになったかと思います。

小畑理事長、本当に有り難うございました。「次年度のもとで」と言えない事は、卒業生独特の辛く悲しい心情です。今年一年は本当に楽しく、素晴らしく、有り難い年でした。浮かぶ言葉は、「感謝・感動・感激」の3文字ばかりです。

最後になりますが、このような機会を与えていただいた小畑理事長をはじめとするLOMのメンバー皆様に心より感謝申し上げます。報告とさせていただきます。本当に有り難うございました。

2009年を終えて

副理事長 武 藤 寿

今年度、小畑理事長からのお声掛けにより副理事長という大役を仰せつかりました。

昨年に引き続き2度目の副理事長という事で、昨年の経験を生かし小畑理事長をどう支える事が出来るかと考えているうちに1年が過ぎようとしています。まずはこの貴重な体験をさせていただく機会を与えて下さいました小畑理事長への御礼と共に、ご指導ご協力いただきました三役の皆さん、理事会構成メンバーの皆さん、そして会員各位に御礼を述べさせていただきますと思います。

「大きなうねりを今こそおこせ！笑顔が彩る未来輝くあきたのために」のスローガンのもと、本年私が担当させていただきましたのは、中村常任理事が率います「総務・情報室」、総務委員会・木村委員長と情報コミュニケーション委員会・武石委員長でした。総務委員会では総会の設営と運営や総会と理事会の議事録を作成、公益社団法人格取得に向けた活動を行い、9月例会においては小田與之彦直前会頭をお招きし「地域により必要とされる組織であり続けるために」をテーマに、J C運動の本質を再認識し新制度に対応した将来のL O Mの可能性について講演をしていただきました。

情報コミュニケーション委員会ではL O M活動の情報を発信すると共に行政・各種メディアへL O M事業のP Rとホームページがより効果的に活用される為に活動を行い、3月例会には遠竹智寿子氏をお招きし「進化する情報化社会 次世代のコミュニケーションを考えよう」をテーマに進化し続ける情報コミュニケーション技術や新しいコミュニケーションの形を学び、メリット・デメリットを正確に理解する事で、時代の変化に対応した社会のあらゆる場面で有効活用できるコミュニケーション能力を身に付けるために講演いただきました。両委員会とも1年間を通じての活動を完遂していただきました。

そして今年L O Mでは10月に「第25回全国J Cサッカー選手権大会」を主管いたしました。その実行委員会では総務部会として各会場における駐車場の確保、弁当の手配、補助員・審判員・医師の手配、ホームページ・試合記録の作成など大会にかかわる資料の作成と両委員長には頑張ってください、中村常任理事においては大会当日の2日間、ひとり本部として活躍いただきました。これも予定者の段階から両委員長をご指導いただいた中村常任理事のお力によるものと心から感謝いたします。

最後になりますが、私にとって2009年はこの両委員会を通じ様々なことを学ばせていただきました。そして、副理事長としてL O Mの運営、理事長の補佐役として1年間活動させていただきましたが小畑理事長のご期待に沿うことが出来たかどうか十分ではなかったかもしれませんが、この一年間、大変素晴らしい経験をさせていただきました事に感謝申し上げ、そして今年度の反省を踏まえ次年度へ繋げていく事を誓いまして報告とさせていただきます。一年間、本当にありがとうございました。

2009年を振り返って

副理事長 川 口 雅 丈

昨年、7月に小畑理事長より副理事長のご指名をいただき、その場にてお引き受けして臨んだ2009年、私にとってJ C入会10年の節目の年でもあり、非常に重要な一年でありました。担当させていただいたのは地域力開発室で人間力開発委員会と地域の魅力創造委員会の2つの委員会で構成されておりました。

また、第25回全国J Cサッカー選手権大会 秋田大会の担当も仰せつかり、予定者から実行委員会の立ち上げを行い、毎月の協議を重ねて10月の当日まで1年間を通して皆様のご協力をいただきながら大会運営を行いました。

実行委員長には当然のごとく、大会誘致を2003年に提案された進藤監事に努めていただき、私は副実行委員長として4年ぶりに委員長になった気持で事業の準備を重ねてまいりました。が、5月に入りいよいよ準備も詰めていかなくてはならない時期になって重大な決意を迫られることになりました。

正直なところサッカーの全国大会を誘致してきた責任として2009年度の副理事長をお引き受けしたつもりでしたが、L O Mの副理事長としての自覚に欠けていたことに気づかされたのがこの5月でした。副理事長たるものはいつでも理事長を務める覚悟を持って臨む役職だということです。それから約1カ月の間、多くの方々にご相談させていただきました。毎日毎日、そのことだけを考え、自問自答を繰り返しながら、悩みに悩んだ末に2010年度の理事長として立候補させていただきました。この決意にあたり、本当にメンバーの皆様には助けていただきました。サッカー全国大会の資料作成についても各部長様をお願いをし、本来であれば私がすべきことまでも、皆様に行っていただきました。

「人は支えてこそ支えられる」。多くのメンバーに支えられ今年一年を終えようとしております。来年はメンバー皆様の支えになるべく、初心に戻り日々研鑽に励む所存でおります。

最後になりますが、このような機会を与えてくださいました小畑理事長に感謝申し上げます。一生懸命に励んでいただいた田口室長、渋谷委員長、児玉委員長に感謝申し上げます。支えてくださいました全メンバーに感謝申し上げます。

皆様本当にありがとうございました。

副理事長を終えて

副理事長 鈴木 充

小畑理事長より副理事長の任を拝命し、その重責を肝に銘じ短くも長い複雑な1年を過ごしてまいりました。私が主に担当することになったのは高橋大輔委員長を率います「おもいやりの心」推進委員会と加賀屋議長率います会員拡大会議の1委員会1会議体からなる「心」の伝播室でした。両名に対し的確なアドバイスしたり、資料提出の期限を守らせたり、厳しくもやさしい小松貴常任理事が室長にすわりました。小松常任には私の出番がほぼ無いようなご指導をいただけたことにまずは感謝したいと思います。

「おもいやりの心」推進委員会では、利他の精神に基づき「おもいやりの心」を育む活動を行ってきました。近年日本で失われつつあるこの命題を形にするのは容易なことではないとは思っていましたが、見事成し遂げてくれました。高橋委員長の想いが強烈に詰まった例会では講師に『いのちをバトンタッチする会』の鈴木中人先生をお招きし、「周囲とともに生きていること」や、「いのち」の尊さを再確認し、助け合い、支え合いながら生きていくことの大切さを学びました。また、例会で涙したのも初めての経験でした。その後、8月には“まんたらめ”で随所に支えあい助け合う機会を設けた親子おもいやりスクールを開催し、締めくくりの事業として“大切なあなたへ おもいやりメッセージボタン”をテーマとした、ら・ブックノートの作成をしました。この事業の最終成果はまだ確認できませんが、委員会メンバーが思う「心」がきっと伝播していることと思います。

会員拡大会議では30名以上の拡大を目標に1年間活動してまいりましたが、昨今の社会的背景もあり残念ながら目標とする人数には届きませんでした。拡大会議に参画いただいた副委員長の皆様、ありがとうございます。しかしながら、このような時代にも前向きな方々はおり、今年はそういった精鋭の方が入会されました。L O M 一丸となって活動するために、自ら嫌な役を買って出て辛い思いも加賀屋議長をはじめとする会議体メンバーはされたことと思いますが、入会された人数以上にその活躍は皆知るところです。次年度以降、公益法人となる為の必須事項に会員拡大が挙げられます。公益性の高い事業の比率を上げ、事業費を上げるためにはどうしても多くのメンバーが必要になるからです。次年度以降は例年以上に泥臭く、皆で拡大活動をしていかななくてはならないと思われま

す。そして室以外のところで今年思い出深かったのは第25回 J C サッカー大会でした。その設営に関しまして、やはり秋田 J C のすごさを改めて感じさせていただきました。この L O M に所属できていることを改めて誇りに思いました。私は素人ながらも選手として参加させていただきましたが、たいした活躍をすることもなく終わりました・・・。

最後になりますが、小畑理事長の思いを汲んで私が活動できたかどうかは自分では判断できませんが小松常任、高橋委員長、加賀屋議長をはじめと致します委員会・会議体メンバーの活躍は間違いなく光り輝くものがあったと感じております。次年度以降も「明るい豊かな社会」の実現に向け全メンバーで頑張りましょう。

2009年を振り返って

専務理事 山 陰 逸 郎

2009年度を終えるにあたり、いま手帳をみて振り返ると様々なことが思い出されます。

小畑理事長より専務理事のお話をいただいた際は、私自身不思議と迷いはなく、逆に「この人の専務理事をやらせてもらえるのか！」という誇らしさと期待でいっぱいだったように思います。とはいえ、私にとって、三役会はもとより常任理事会に出席することすら初めてで、予定者当初は波のようにくるメールや電話にあくせくしていました。

各委員会事業においては、「大きなうねりを今こそおこせ！笑顔が彩る未来輝くあきたのために」のスローガンのもと、すべての事業に「地域愛」と「おもいやり」の心の伝播を力強く感じさせるものばかりであったと思います。なかでも今年3年目となる世代間協働事業「あきたふれあいフェスタ～ミルヴェェさいくべ～」では、中心となる世代間協働推進委員会のほか、各委員会がそれぞれの事業成果を持ち寄り、多くの市民が集い、世代間の交流、郷土愛そしておもいやりの心を感じていただけのものであったと思います。各種大会においては、京都会議・サマーコンファレンスと常陸太田J C並びに東京J C千代田区委員会の皆様と懇親を深めあい、また全国会員大会では卒業される酉年メンバーの御祝とともに沖縄の地へ秋田名産「いぶりがっこ」伝播のため何日も前から50キロにもおよぶいぶりがっこを用意し、切って準備してくれたメンバーには本当に感謝の念に堪えません。そのおかげで、沖縄でいぶりがっこは大好評でした。

この1年4ヵ月、理事長やL O Mの支えとなるべく邁進してまいりましたが、多くの皆様に支えられ次年度専務へとバトンタッチできるところまでたどり着けました。しかし、いま振り返ってみても、理事長の想いを理解し、専務理事として皆様に言葉や行動としてそれを伝えることができたかという問いには首を傾げざるを得ません。いまのこの想いは次年度の自らの行動にて、L O Mや皆様にお返しすることといたします。

最後になりますが、誰から見てもわがままで言うことの聞かない私を専務理事にご指名いただき、たくさんの経験をさせていただいた小畑理事長に心から、こころから感謝申し上げます。また、若輩者の私を暖かくご指導いただき「専務」と呼んで常に立てていただいた副理事長の皆様をはじめとする理事会構成メンバーの皆様に感謝申し上げます。そして卒業生でありながら事務局長として私を支えていただいた金子事務局長、また設営等でご苦勞をかけた次長の皆さん、いやな顔もせず資料作成のほか暖かい笑顔でメンバー全員を事務局に迎えていただいた松澤事務局員に心から御礼申し上げます。

秋田青年会議所メンバー並びに先輩諸兄の皆様、そして今年一年お世話になったすべての方々に感謝を申し上げまして、本年専務理事の報告とさせていただきます。ありがとうございました。

2009年度を振り返って ～そして挑戦し続ける現役の皆さんへ

監 事 進 藤 文 仁

1996年に仮会員として(社)秋田青年会議所の門戸をたたいてから13年間のJ Cライフにも終わりを告げようとしている今、一言で申し上げるとするならば非常に複雑な気持ちです。これまでは青年会議所と言う大きな組織が後ろ盾にあり守られてきましたが、卒業して一企業人・一市民となった時に「自分には一体なにが出来るのだろうか・・・」そんな不安がある反面、J Cで学んだ事を何かしらの形で地域にお返しすべく、自身への期待と希望が交錯しています。J Cからは本当に多くのことを与えていただきました。単年度制であるが故に、多くの役職も経験することができましたし出向もさせていただきました。この13年間で得ることができた多くのことが、生涯J A Y C E Eとしてこれからの私にとり大きな財産であると確信しております。ラストイヤーである本年度、L O Mでは監事と全国J Cサッカー選手権大会実行委員長、出向先では秋田ブロック協議会直前会長と東北地区協議会監査担当役員(旧職名は監事)としての担いをいただきました。すなわち理事会では勿論のこと、ブロック・地区の役員会においても発言は可能ですが挙手権はなく・・・物足りなさを感じながらも客観的な立場で会議に参加をさせていただけたことで学びや気付きも多く、非常に勉強になった一年間でした。監事の職務としては、「1. 秋田青年会議所の財産の状況を監査すること。2. 理事会及び事業の執行の状況を監査すること。3. 財産の状況又は事業の執行について、法令、定款若しくは寄附行為に違反し、又は著しく不当な事項があると認めるときは、総会又は主務官庁に報告すること。4. 前号の報告をするために必要があるときは、総会を招集すること。」ですが、私自身小畑理事長の掲げられた「大きなうねりを今こそおこせ!笑顔が彩る未来輝くあきたのために」のスローガンのもと、この監事の職責をどの程度全う出来たのか・・・些か疑問も多いところではありますが、2010年度以降も現役で残られる皆様が何かしらを感じていただき、「明るい心豊かな社会の実現」に向けて邁進されますことを願っております。

「変革の能動者たらんとする青年として 個人の真に豊かな生活の実現を通して 自立した快適で活力ある地域を創造し 自由と公正を保障する国家を基盤として 世界の平和と繁栄に貢献し 地球上の全ての人と共に生きることを誓う」、これは一世代前のJ C宣言であり秋田J Cにおいても2001年まではセレモニーの際に朗読されていましたが、このことを知っている現役メンバーも今では少なくなってきました。1970年に初代J C宣言が制定され1990年に新宣言文として上記記載文へと変わり、2002年から現在の宣言文となっています。しかしながら青年会議所運動の基本方針である綱領は1960年に制定されて以降、変わっていません。この辺りの歴史や背景については、長谷川直前理事長が詳しいと思いますのでご興味のある方は個別に聞いていただくこととして・・・、常々申し上げておりましたが「物事を変えること」について、私個人としては肯定派に属しています。世の中の流れや状況に応じて、若い方々の可能性と発想力で果敢に挑戦できるのが青年会議所の醍醐味でもあります。しかしながら物事を変えるにあたっては、それまで経緯と歴史を理解し議論をし尽くした上で、

英知と情熱を持って変えるべき事柄は勇気を持って変えるべきです。後に必ずその事柄についての検証を行い、データ等ではなく【Face to Face】で申し伝えを行って下さい。『膝と膝を付き合わせて真剣な議論が出来る・・・』それが青年会議所の最も素晴らしいところであり、第25回全国J Cサッカー選手権大会においても、本当に多くの皆様からお力添えを賜り無事に終えることが出来ました。大会を主管したのは一つの通過点と捉えていただき、事業検証を行った上で次なるステップへと進んでいただけることを願っております。2010年度以降【公益社団法人格取得】が秋田J Cにおいては一つの大きな担いであり節目にあたると思いますが、そんな時こそこれまで申し上げたことを頭の片隅にでも置いていただき、メンバーが一丸となってチャレンジいただけますことを期待いたしております。市民意識の変革・・・すなわち社会変革運動は、そんな我々一人ひとりの「ちょっとした心がけ」から始まるのではないのでしょうか。

結びとなりますが、ラストイヤーにもかかわらず監事および第25回全国J Cサッカー選手権大会実行委員長にご指名をいただき、更にはダブル出向も快くご承諾を下さいました小畑理事長はじめ、ご支援下さいました皆様一人ひとりに深く感謝申し上げます。13年間、お世話になりました・・・そして本当にありがとうございました。

「2009年度を終えて」

監 事 時 田 祐 司

本年度、小畑理事長よりお声掛けをいただき、昨年度同様監事として一年間勤めさせていただきました。まずは1年の活動を終えるにあたり、ご指導、ご協力くださいました会員皆様に謹んで御礼を述べさせていただきます。理事会と例会においては、冒頭の理事長挨拶を受けて各々の会議がどうであったかということに関し、できる限りテーマを絞って監事講評をさせていただきました。その際、事業推進にご難儀をされている委員長には、私なりに学んできた自分の事業への取り組むための想いをお伝えさせてもらったつもりであります。

さて、今年度のL O Mの事業についてであります。各委員会が概ね事業計画に沿った運動展開を積極的に行っていたかと思えます。継続事業は基より新たな取り組みとなった事業を、委員会同士で協力をしながら例年以上に活発に行っていたこと、より一層地域の方々と繋がりを得ることができたと感じました。次年度にはしっかりとこれらの事業を検証し、つなげていただきたいと思えます。

また、東北地区協議会東北ゼミナール委員会へ副委員長（ゼミ長）として出向させていただきました。委員会の主な事業内容は、東北の地産地消の検討とアスパック I N長野でのBプロジェクトへの参画でありました。先ずアスパックについてであります。東北各地の食材をいれた汁物をゼミ生が一から企画し、試作・準備及び参加者に食べてもらうことで東北の力、そして存在をアピールできたと思っております。更に、地産地消の検討については、『どうしたら消費者や子供たちに地元の生産

品を買ってもらいやすくなるのか』について意見を出し合い提案書をまとめ上げ、東北青年フォーラムにて公開ゼミナールを開催し発表させてもらいました。ゼミの仲間は、積極的にゼミ活動に参画し私がいなかった場面でも自分たちで協議を進め、ゼミの想いをまとめあげていただきました。不甲斐ない私を支えていただき本当に感謝しております。今年度この委員会における三つのゼミ全てに出向者を輩出できたL OMは東北の中で秋田青年会議所だけでありました。できれば将来には地産地消に関連した事業をL OMにおいても行っていただきたいと願っております。私自身も今回出向させていただきL OMとは別に東北各地に深い絆をもった仲間ができ最終年度として大きな贈り物をいただいた気持ちであります。

最終年度になってようやくJ Cの三信条奉仕・修練・友情が想いとして心に留めることができるようになってしまいましたが、最後にこのような機会を与えると共に支えて下さいました小畑理事長をはじめ会員の皆様と東北の仲間に、入会からこれまで私を導いてくださった諸先輩方と多くの友人に、私が青年会議所運動をすることを陰ながら支えてくれた家族、会社の皆様に心から心から感謝申し上げます、2009年度のご報告とさせていただきます。ありがとうございました。

2009年度を振り返って

常任理事 総務・情報室長 中 村 純 也

本年度、在籍中初めてとなる常任理事を務めさせていただきました。担当の総務・情報室は名前のとおり、総務委員会と情報コミュニケーションの二つの委員会で構成されております。

木村委員長率います総務委員会は本年度に関しては、総会の運営、議事録の作成、基本資料・会員名簿の作成という通常の内容のほか、公益社団法人格取得に向けての準備という今まで無かった要素も加わり、より一層の運動量が求められました。公益社団法人関連の各種セミナーには木村委員長を中心に各委員会メンバーも積極的に参加し、また他L OMの進捗状況などの調査や情報収集等、地味な活動となりましたが公益社団法人格取得に向けて準備を着実に進める事ができたと思います。また担当した9月例会では「より地域に求められる組織であり続けるために」というテーマで、(社)日本青年会議所の小田直前会頭にご講演いただきました。広い意味での「公益」という視点でお話しいただき、Jayceeとしてだけでなく社会人としての規範のようなものを示唆していただいたように感じております。

一方、こちらにもまた豊富な運動量が求められました武石委員長率います情報コミュニケーション委員会ですが、一年を通してほぼ全ての事業に関して取材等行い、精力的に活動してくれました。また毎月のJ Cニュースの発刊やホームページの更新等、L OMの活動状況情報をタイムリーに発信し、特に本年はホームページの活用法が以前よりも活発化したように感じております。例会への参加申込やアンケート調査などもホームページを利用しながら行い、また他委員会からの記事掲載の要望についても出来るだけ迅速に対応し、委員会同士の横軸連携もうまく機能していたように感じられます。

最後になりますが、このような機会を与えて下さいました小畑理事長に感謝するとともに、至らぬ室長を支えてくれた木村、武石両委員長、そして担当として適切なお指導をいただきました武藤副理事長に感謝申し上げ年次報告とさせていただきます。ありがとうございました。

2009年を終えて

常任理事 地域「協働」室長 進 藤 史 明

本年度、地域「協働」室長として、企業貢献力向上委員会と世代間協働推進委員会の2委員会を担当させていただきました。

伊藤委員長率いる企業貢献力向上委員会は、地域企業が地域のためにできることを率先して行動することを目標に1年間活動して参りました。5月の担当例会で、社団法人日本フィランソロピー協会理事長の高橋陽子氏を講師にお招きし、「地域活性化につながる企業の地域貢献を学ぼう」をテーマに講演いただきました。また、「今こそ前へ！地域・企業・行政で奏でる地域防災ハーモニー」をテーマに企業貢献力向上事業を実施しました。ハーモニーⅠ・Ⅱ・Ⅲと段階を踏んで、地域企業の地域に対してできることを模索しました。

能登谷委員長率いる世代間協働推進委員会は、新年例会の担当として、(社)秋田青年会議所の船出となる式典の設営を行いました。また、3年目を迎えた世代間協働事業をより発展させるべく、循環型アグリ体験事業、民話劇「ふしぎなしおひきがた」を柱に、市民の方々と共に準備を行い、9月に「2009あきたふれ愛フェスタ～ミルヴェさいぐべ～」を開催し、多くの笑顔を創造することができました。

1年を振り返ってみると、地域「協働」室は、荻原副理事長の包容力と能登谷委員長、伊藤委員長のひたむきさにより、素晴らしい事業を行うことが出来ました。事業を行うに当たり、様々な障害や困難がありましたが、一つひとつ乗り越えるたびに強い結束になっていったと思います。また、他委員会の事業や諸大会においてもしっかりと協力出来ました。荻原副理事長、能登谷委員長、伊藤委員長には感謝の心で一杯です。ありがとうございました。

2009年度を終えて

常任理事 未来創造室長 小野 貴信

今年度、常任理事・未来創造室長として、環境行動推進委員会と青少年育成委員会の二つの歴史ある委員会を担当させていただきました。

バイタリティーあふれる鈴木亮委員長の率いる環境行動推進委員会は、2月の例会で学んだことを活かしながら、今回で29回目となるサケの稚魚放流事業にて、地域の児童を巻き込んだ環境クイズなどを行い、楽しく環境保護について学びました。また、資源を節約することが個人で身近に取り組める環境保護運動と考え、エコバック（オラバック）の推進に注力しました。ここでも市民や学生を巻き込み、多くの人へ資源の節約を伝えられたことは意義ある運動だったと考えます。そして、委員会のみなさんの意識の高さが6月までの例会出席率が100パーセント、年間でも90パーセントを超える強烈な数字に表れたと思います。

また、誠実さとユーモアをあわせ持つ鈴木憲委員長率いる青少年育成委員会は、「先祖代々から引き継がれてきた道徳心を、愛情を持って子供に伝える」ことを大きな柱に、一年間行動しました。4月には講師をお招きし、能動的な聞き方をすることで子供の道徳心を育むことをテーマにご講演をいただいた後に、子供たちと多く接する機会のある方々と意見交換会を開催し、事業に繋がる貴重な意見や要望をいただきました。その後、委員会で紙芝居とキーホルダーをツールに使い道徳心を育む事業を企画し、児童会館で不特定多数の方々を対象に1日に3回実施し、目標どおりの100名以上を対象に実施できました。さらに、世代間交流事業でもプログラムを実施し、多くの市民、親子に秋田JCらしい手法で道徳心を育むことの大切さを伝えられました。いずれもしっかりとした事前の準備と、確かな人間関係を築いたからこそと考えます。

最後に、このような大役を任せていただいた小畑理事長に心から感謝申し上げたいと思います。そして、どちらも事業系のとてもボリュームのある委員会を導く上で常任理事として力不足であったと思いますが、松本副理事長の細やかな配慮や、両委員長、そして委員会メンバーの多大なご協力に深く感謝いたします。自分自身も成長できた年と感じております。本当にありがとうございました。

2009年度を終えて

地域力開発室長 田口 正人

2009年度は地域力開発室の人間力開発委員会と地域の魅力創造委員会を担当させていただきました。本年度の人間力開発委員会は、2008年度までで完成された人間力開発プログラム「学の夏休み」を一

人でも多くの児童に受講していただくことが最大の目標でした。「学の夏休み」は小学校中学年をターゲットにした人間力開発プログラムであります。当初は学校のカリキュラムとも調整がつかず、また、「夏休み」という題名から、時期が早すぎるとの声も多く、早急な実施を目指していましたが、中々実施することが出来ませんでした。しかし、児玉委員長をはじめとする委員会メンバーの熱意と、様々な人の協力により、夏休み明けから怒涛の開催で、開催校も10校となったほか、現場の先生方にも高い評価をいただき有意義なプログラム展開となりました。「学の夏休み」は副題として、「伝えよう日本の心」ともあるように、日本人が本来持っていた大切に受け継がれてきた精神を、プログラムを通して、児童に考えていただき、気付いてもらうことです。ただ、人間力開発委員会の最大の利点であると思いますが、プログラム展開を実施する我々も様々なことに気付いたり、児童のひたむきさに感銘を受けたりと、教える側の我々がとてもいい刺激を受けることができ、集中開催の大変さはありましたが、実施の楽しさも感じる事ができ、初めての人間力系でしたが、貴重な経験をさせていただくことができました。

地域の魅力創造委員会は、あきたの新たな魅力を発掘することから始めました。2月にはポポロードでの街頭アンケート、そして、3月には外部有識者をお呼びしてオープン委員会を開催し、あきたの新たな魅力の発掘に挑戦しましたが、非常に困難を極めました。誤解を恐れずに述べさせていただくと、我々は日頃からまちづくりに対して、議論することも多く、自分なりに「あきたがこうなって欲しい」「こうあるべきだ」と思うところがあります。しかし、自分もJCに入っていなければそうだと思いますが、多くの市民の方は今後のあきたには不安はもっているのですが、あきたにある程度満足しているということです。我々の狙いとしては、市民の方から意見を吸い上げ、客観的な事実をのせ、それをあきたの魅力として事業を行うという考えでしたが、それが大変難しいということに気付きました。JCには「変革の能動者」という言葉がありますが、これこそがまちづくりにとってとても大切であるということに気付きました。あきたの魅力を発掘し、広めることだけがまちづくりではなく、あきたの魅力を高めて、広めることも必要であるということです。我々の独りよがりでは絶対いけないことですが、あきたの魅力を変革の能動者として、事業を通じて高めることで、市民の方に理解、そして共感していただき、それが地域の誇りとなり、自分たちの郷土は自分たちの力で守っていかなければならないという気持ちを育むことにつながる。市民がこのあきたに愛着と誇りをもってもらうきっかけとなる、あきたの魅力を我々で提案することが本委員会の責務であることに遠回りはしましたが、気付くことができました。

常任理事に任命していただいた小畑理事長に感謝するとともに、次年度以降も邁進していきたいと思えます。

「2009年度を終えて」

常任理事 「心」の伝播室長 小 松 貴

本年度、2回目の常任理事を務めさせていただきました。担当の『「心」の伝播室』は、「おもいやり」の心推進委員会と会員拡大会議の1委員会1会議で構成されました。

高橋委員長率いる「おもいやり」の心推進委員会は、『「自利利他」の精神で「おもいやり」の心を伝えよう』をテーマに、近年社会全体に見多くみられるモラルの低下や、利己的な考えにおける「自分が良ければ良い」と言う様な考えが蔓延していると感じるため、日本人が古来より持ち合わせている「利他の精神」を持ち、各々の事業においてお互いが助け合い「おもいやり」の心を伝播する事業を展開いたしました。5月の交流事業では、母の日に合わせ家族に感謝の気持ちを伝える場を持ち、更にメンバー同士の絆を深めました。6月担当例会では、鈴木中人氏を講師にお招きし、先生とお嬢様との闘病生活や現在の活動での多くの体験から、「周囲とともに生きていること」や「いのち」という限られた時間の中でいかに生きるべきかを学び、私たちの本来持っている「おもいやり」や「利他の精神」を呼び起こしていただきました。8月には「親子おもいやりスクール」を開催し仁別のまんだらめにて、プログラムを通して、家族の絆や愛情、周囲との関わり大切さを再確認し、「おもいやり」の心を育みました。10月から身近な人に「大切な人に対する想い」を実際文章にし、それを製本し、他者に見てもらい追記して気持ちがバトンタッチして行ける「ら・ブック」を制作いたしました。また、この委員会は2月にニュースで知った羽後町の安藤大輝君の移植募金にも参加をし、アルベヤセリオンにて募金活動のお手伝いをいたしました。多くの皆様から気持ちが集まり無事に目標を達成し移植手術が成功いたしました。個々の小さな気持ちが伝播し、大きな力となったと感じました。各々の事業において「おもいやり」を持ち、参加者のみならず設営側にも笑顔があふれる活動をいたしました。

加賀屋議長率いる会員拡大会議は、「地域発展のため、一丸となってJ Cの輪を広げよう」をテーマにメンバー一人ひとりが自覚を持ち拡大活動を強力に推進して行く事を目標に活動いたしました。当初目標に掲げた拡大数には遠く及ばなく、多々反省する点がありますが、その点は加賀屋議長の方から報告があると思いますので割愛させていただきます。今年度の拡大会議では、「次世代を担う志の高い会員の育成」の観点から過去のスクール内容を検証し、また現役会員からアンケートを取り、より有意義なJ Cスクールを企画・開催いたしました。少数ではありますが今後のL O Mを担う会員拡大になったと感じております。

両委員会・会議とも、高橋委員長・加賀屋議長のリーダーシップの元、メンバーが一丸となって各事業運動に積極的に取り組んでいただきました。指導力不足の私の元、十二分に成果を出していただいた高橋委員長・加賀屋議長に感謝し、このような機会を与えていただいた小畑理事長、適切なお指導をいただいた理事会構成メンバーの皆様に深く感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。